

11.9.11
A

正調 安 來 節

- ◇お國ばかりか 津々浦々迄も
歌ひ ひいかす やすぎふし
- ◇私がお國で じまんのものは
出雲大社に やすぎふし
- ◇君が代は 松にともづる
幾千代迄も操正しきときわ色
- ◇なにも ^{しん}はで 沖行く舟に
いそで心を くたく浪
- ◇あなた我まゝ 私は氣まゝ
國勢調査は ありのまゝ
- ◇せきとみさきに どうだいあれど
戀のやみじは てらしやせん
- ◇私も昔は 社日の櫻
今は問ひ來る 人も無し
- ◇それに 十神は ときわいろ
昔思へば なつかしや
- ◇山は焼けても 山鳥たゝぬ
なにわぶし
- ◇焼野のきじす 夜の鶴 三千世界に
子を持つた 親の心は皆一つ 子を
思わぬ 親はない
かわい我子に ひかされる
- ◇夢になり共 そわしておくれ
追分
ちひじや なさけじや 早よこゝ
あけて
- ◇こよい合わなげや こがれ死ぬ

新調 磯 ぶし

- ◇義理に 義理ある 主さんを
見捨て 縁も由りもない
あの人に するを 頼むと
云ふたが 私の 心得ちがひ

鴨 緑 江 節

- ◇梅か 櫻か 桃山御陵 そばで
目に立つ 乃木神社 死して護國の
神と呼ばれて 世に まつられる
- ◇きしも鳴かねば うたれはすまい
あの時あなたに 合さいせねば
こんな苦勞も しやせぬ あなたに
ちよいと さしもせぬ
- ◇立田川には 紅葉を流す 隅田川に
は櫻を流す 私とあなたは 戀の
瀬川に 浮名を流す
- ◇咲くも花 散るも花なら 櫻田御門
伊井の 掃門さんが 花なれば
ハルビンの 伊藤さんは 花の花よ
乃木さんの またじゆんは 國の花
- ◇一方の 茶屋の二階で 引く三味の
音は 敵をあざむく 由良之助
三味の 音じめは よゆるむとも
心のまた根じめは ゆるみやせぬ
- ◇百二十五 生きると云ふた 大隈公
かたる理想は 良けれども
八十五歳でよ 死だなら 残る又
四十年が ほらになる
- ◇要するに けだし 神聖の ラブ
なる者は 相思相愛 あいたいし
義務や權利なやよ 用はない
全々 又金銭的の 仲じやない

(非 賣 品)

神戸製鋼所 行 商 部